

平成 30 年度  
教育委員会活動の点検・評価報告書

知名町教育委員会  
令和元年 9 月

# I 点検・評価の概要

## 1. はじめに

平成19年6月の「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部改正により、すべての教育委員会が「教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価」を行い、その結果に関する報告書を作成して議会に報告するとともに、地域住民に対して公表するように義務づけられた。また、その実施にあたっては、学識経験者の知見を活用するよう義務づけられている。

## 2. 点検評価の実施について

この点検評価は、教育委員会の会議による審議状況や教育委員による調査活動と、教育委員会の事務事業の執行状況について、実績や成果と課題を記述し、次に示す4区分により達成度の評価を行った。

点 数	内 容
4	順調に達成しているもの
3	おおむね順調に達成しているもの
2	達成見込みがあるが課題があるもの
1	順調でないもの

## 3. 知名町教育委員会の取組方針

今回で11回目となり、前回平成29年度の点検・評価を踏まえ、同様に評価項目を4段階での数値評価とした。前回は教育委員会関係と学校教育関係、学校給食センター関係の3項目とし、今回の評価項目は、社会教育関係と公民館・図書館関係について、教育長及び教育委員4名による自己点検、自己評価を実施し、評価委員の意見をいただき集約したものを本報告書にまとめ、令和元年9月の第3回議会定例会で報告することとした。

(1) 社会教育関係では、評価項目を「(1) 社会教育指導体制の充実」「(2) 家庭教育の支援・充実」「(3) 青少年教育の充実」「(4) 芸術文化活動の促進」「(5) あしびの郷・ちなの活用」「(6) 文化財の保存活用」「(7) スポーツ・レクリエーションの推進」の7項目について、点検評価を行った。

生涯学習課の年間の行事、各種協議会開催内容、文化活動、文化財の活用、スポーツ大会開催状況やそれらの資料、課長の説明質疑をもとに、4段階の数値による評価と記述による意見をまとめた。

(2) 公民館関係では、評価項目を「(1) 公民館講座の充実」「(2) 自治公民館長研修会の充実」「(3) 短歌コンクール実施」「(4) 町民作品展示会の開催」「(5) コミュニティーづくり推進協議会の開催」「(6) 成人式の実施」「(7) 弓削政己寄贈文献史料の整理」「(8) 施設整備」の8項目について点検評価を行った。

中央公民館の年間をとおした講座や教室など、各種事業の開催状況やそれらの資料、館長の説明質疑をもとに、同様の数値による評価と記述による意見をまとめた。

(3) 図書館関係では、評価項目を「(1) 図書館運営の充実」「(2) お話宅配便の充実」「(3) 図書館まつりの充実」「(4) ブックスタートの充実」「(5) おはなしの時間の充実」の5項目について点検評価を行った。

お話宅配便の実施など、図書類の年間をとおした活用推進、各種事業の開催状況について、館長の説明質疑をもとに、同様の数値による評価と記述による意見をまとめた。

教育行政評価委員

役 職 等	氏 名
元 教 員	沖 野 富 秀
元 町 職 員	栗 尾 廣 美

## Ⅱ 点検・評価結果

### 1 社会教育関係

評価項目	評価の観点	評価
(1) 社会教育指導体制の充実	社会教育指導体制の充実を図り、町民の多様な学習要求に応じて、学習機会の拡充と学習の気運づくりに努めているか。	3.2
	(反省・意見)	
	社会教育法に基づき、社会教育委員会を開催し、社会教育に関する諸立案や意見交換を行った。	
(2) 家庭教育の支援・充実	町民の意見を取り入れ、各種イベントに工夫を凝らし、学習機会の充実と、気運の醸成に努めた。	3.0
	(反省・意見)	
	心豊かでたくましい子どもを地域ぐるみで育てるために、家庭教育の充実及び支援は図られているか。	
(3) 青少年教育の充実	家庭の教育力の向上を目指し、家庭教育支援員による小学校新1年生入学説明会・家庭教育相談業務等様々な取り組みを行った。	3.1
	(反省・意見)	
	家庭や地域の教育機能の活性化を図り、実践活動を通して、豊かな心をもった青少年の育成と自主活動ができる青少年団体の育成が図られているか。	
	知名町青少年育成連絡協議会（年5回）を開催し、地域子ども会活動の活性化を図った。	
	青少年にふるさとのよさを再発見させ、地域ぐるみで青少年を育てる気風づくりを促進するため、青少年ふるさと美化活動・おはよう読書会・郷土に学び・育む運動を実施した。	
	地域で主体的に取り組むジュニアリーダーを育成するため、中学生2名を「鹿児島県ジュニア・リーダー交流会」に参加させた。	
(4) 芸術文化活動の促進	ふるさとの豊かな自然環境にふれるとともに、地域における実践的な子ども会活動のあり方やリーダーの役割等について学び、リーダーとしての資質向上を図るため、沖泊海浜公園にて小学5～6年生13名を対象にサマーリーダー研修を実施。KYT学習、人権学習、文化財学習、調理実習、自然観察、美化活動、レクリエーション等を行った。	
	知名町の児童生徒の優れた個性を発見し、知名の子表彰として表彰した。心身ともに健康な青少年の育成を図ることを目的として、町内でがんばっている小学生・中学生・高校生の30名、7団体を表彰した。	
	町民の多様な芸術文化活動を支援するとともに、芸術文化団体及び知名町の文化を担う青少年の育成強化が図れているか。	

	<p>(反省・意見)</p> <p>文化協会青年部主催による第19回「五月の祭典」を開催し、芸術文化団体に舞台発表の機会を提供した。</p> <p>出演機会の少ない幼児や低学年の生徒を中心に舞台の場を提供するため、第26回知名町ふるさと夏祭りにおいて、文化協会加盟団体による舞台発表を行った。</p> <p>生涯学習活動の発表の場として生涯学習フェスティバルを開催し、文化協会加盟団体及び公民館講座生による舞台発表・作品展示を行った。</p> <p>青少年・一般の演奏技術の向上と発表の機会の舞台として、第35回沖永良部コンクールを開催した。</p> <p>地域独自の文化である島唄島ムニを保存継承するため、「島唄島ムニ大会」を開催した。</p>	3.2
<p>(5) あしびの郷・ちなの活用</p>	<p>あしびの郷・ちなの効率的な運用と自主文化事業による住民参加型事業・鑑賞事業等の拡充が図られているか。</p> <p>(反省・意見)</p> <p>平成30年6月16日・17日に、島民創作ミュージカル「えらぶ百物語」を公演した。来場客…16日(昼公演)412名、17日(夜公演)410名</p> <p>平成30年7月26日に、みやまコンセールに所属する2名の演奏家による、霧島国際音楽祭みやまふれあいコンサートinちなを実施した。観客約130人</p> <p>平成30年8月26日に、ファミリー向けコンサートとして、子ども達に大人気の「ケロポンズ」ファミリー公演を実施した。来場客…269名</p> <p>平成31年1月9日～12日にかけて、アウトリーチフォーラム事業鹿児島セッションとしてグリュックサクソフォンカルテットによる町内5小学校への学校公演を実施し、最終日に文化ホールにて、コンサートを実施した。来場客…309名</p> <p>平成31年3月11日に、こころの劇場「劇団四季ミュージカル王様の耳はロバの耳」を島内全小学校全児童を招待し公演を実施。</p>	3.9
<p>(6) 文化財の保存活用</p>	<p>歴史的な文化遺産や伝統芸能、埋蔵文化財の調査・保存・啓発活動は推進されているか。</p> <p>(反省・意見)</p> <p>史跡めぐりや教職員研修、子ども会の体験事業を通して町内の文化財の普及啓発を図った。</p> <p>屋者琉球式墳墓ほか3基のトゥール墓・風葬墓の調査報告書を刊行した。令和元年度、トゥール墓のシンポジウム等を実施する計画。</p>	3.2

	<p>「奄美群島（シマ）遺産」としてあげた「余多のチンキョ」と「久志検の千年フクギ」を、文化遺産めぐり等で活用して町民に普及啓発を図った。</p>	
<p>(7) スポーツ・レクリエーションの推進</p>	<p>町民のニーズに対応したスポーツイベントを開催し、町民参加型の拡充に努めているか。また、スポーツや健康づくりに関する情報提供し、生涯スポーツの普及に努めているか。</p> <p>(反省・意見)</p> <p>町民すべてが一堂に会し、スポーツやレクリエーションを通して健全な心身の鍛練と、融和や団結を図ることを目的として町民体育大会を計画したが台風の影響により中止となった。</p> <p>町体育協会に加盟競技団体が各種スポーツ大会を開催した。</p> <p>スポーツ少年団によるサッカー・バレー・バスケット・ソフト・卓球等各種大会を開催した。</p> <p>町民の親睦・融和を図るため、平成31年1月2日に「町内一周駅伝競走大会」を14チーム参加のもと実施した。</p> <p>駅伝を通して、スポーツ活動の振興を図り、両町の親睦・交流を深めることにより、活気ある島づくりに資することを目的とした「沖永良部島内一周駅伝競走大会」を平成31年2月3日に実施、中高校生チームを含む18チームが参加し活気のある大会となった。</p> <p>町内の60歳以上の高齢者を対象とした「いきいき健康スポーツ大会」を平成31年2月12日に開催し40チーム・200名が参加した。</p> <p>町民の健康と体力の維持・増進、スポーツのための基礎体力づくりのサポートを目的としたトレーニング室を年間1,135名の方が利用した。</p> <p>知名町に適した総合型地域スポーツクラブの設立については、日本における生涯スポーツ社会の実現を掲げ、文部科学省が実施するスポーツ振興施策で、幅広い世代の人々が、各自の興味関心・競技レベルに合わせて、さまざまなスポーツに触れる機会を提供する、地域密着型のスポーツクラブを「全国各市町村に少なくとも1つの総合型地域スポーツクラブをおく」としているため、本町は、NPO法人 沖永良部スポーツクラブ イーラブを総合型地域スポーツクラブに指定予定です。</p>	<p>3.4</p>

## 2 公民館関係

評価項目	評価の観点	評価
(1) 公民館講座の充実	<p>公民館は、町民が生涯の各時期を通して学習の機会が得られるように配慮しつつ、町民のニーズに対応するべく多様な講座、教育等を提供する。また、学習意欲を高め、自主的、主体的な学習活動への参加促進を図った。白百合大学校1教室・受講生26人、中央公民館講座14教室・受講生224人、地区公民館講座3教室・受講生49人 短期講座3教室・受講生36人、自主講座2教室・受講生21人、総勢公民館講座受講生356人。</p> <p>(反省・意見)</p> <p>受講生は昨年より増加した。新規講座の将棋教室は、親子で受講している。魅力ある講座を開設すれば、潜在的な受講希望者がいることがわかった。白百合大学受講生の減少傾向が、止まらない。介護施設との競合があるようだ。抜本的な見直しが必要。</p>	3.2
(2) 自治公民館長研修会の充実	<p>事例発表を交えた自治公民館長（区長）研修会を開催して、集落がかかえている問題等について、共通認識を持ち課題解決の検討を図っている。</p> <p>(反省・意見)</p> <p>環境省主催の「みどり香るまちづくり」企画コンテスト、環境大臣賞（稲水川公園）を受賞した知名集落区長、地域おこし協力隊（勘里絵利奈）による事例発表。とてもいい事例発表であった。</p>	3.0
(3) 短歌コンクール実施	<p>応募総数1073点小学生の部400点、中学生の部200点、高校生の部435点、一般の部38点の応募数でした。延べ応募者数は587人でした。それぞれ短歌大賞・優秀賞・奨励賞・入賞を選出し毎年、生涯学習フェスティバルで表彰及び展示をしている。</p> <p>(反省・意見)</p> <p>生徒児童数が減る中で、応募者数、応募点数は増えている。</p>	3.5
(4) 町民作品展展示会の開催	<p>資料室横の展示台に竹細工製品の展示、図書館事業の活動風景写真等を展示している。</p> <p>(反省・意見)</p> <p>生涯学習フェスティバルでの展示のみでなく公民館での展示（展示期間の配分等を考えて）ができればと思う。</p>	2.5
(5) コミュニティづくり推進協議会の開催	<p>重点実践事項の協議及び町民の実践「申し合わせ事項」の検討協議をし、「ふるさと美化運動を推進しましょう」がまだまだ、不十分であるので今年度も重点実践事項とした。</p> <p>(反省・意見)</p> <p>ふるさと美化運動の推進は地域全体が一体感を持たなければ推進は難しいと思う。まずはゴミの持ち帰り運動から手がけなければと思うところである。</p>	2.3
(6) 成人式の実施	<p>対象者72名中、70名参加、男43名、女子27名が参加した。実行委員会を立ち上げ思いで深い成人式が挙行された。</p>	

	(反省・意見)	3.2
	小学校、中学校までの繋がりを感じる次第であった。昔も今も同じ感覚だと思えほほえましい限りであった。	
(7) 弓削政己寄贈文献史料の整理	180箱、約一万点の文献史料。平成30年度は文献用と史料用の二室を、空調完備で整備できた。	2.9
	(反省・意見)	
	今後、本格的な整理、解説、公開の作業が必要。	
(8) 施設整備	台風被害による、窓枠取替など。(7)のとおり、弓削政己寄贈文献史料用の二室を整備できた。	2.9
	(反省・意見)	
	老朽化により、雨漏りがひどい状況にある。どこまで施設整備に予算をかければいいのか、検討が必要。弓削文献史料室についても、仮の施設であり、本格的な歴史資料館の建設が必要である。	



### 3 図書館関係

評価項目	評価の観点	評価
(1) 図書館運営の充実	<p>職員 館長（公民館長兼任） 1名 司書（公民館主査兼任） 1名 臨時職員 4名</p> <p>休館日 月曜、祝日、月末資料整理日、年末年始、特別資料整理期間</p> <p>開館時間 4月～9月 午前10時～午後6時30分 10月～3月 午前9時30分～午後6時</p> <p>資料費 200万円（図書費143万円、雑誌、新聞、ビデオ57万円） 蔵書数 52,388冊（うち児童蔵書 20,315冊） 町民一人当たり蔵書数 8.73冊 リクエスト受付 405件</p> <p>（反省・意見）</p> <p>本の貸出冊数は、44,331冊、住民一人当たりの貸出数は7.05冊で前回より1%の上昇がみられた。</p> <p>本屋が無く、読書離れが加速し、携帯やスマホで読書する方が増加しつつあります。少しでも歯止めになるよう住民のニーズにあった選書が求められていると思う。また、祝日開館や夜間開館など郡内の市町村と足並みを揃え、利用者の利便性も図る。</p>	3.5
(2) お話宅配便の充実	<p>5月と11月の読書週間に合わせ、各学校区の公民館を巡回して絵本の読み聞かせ・パネルシアター・エプロンシアターなどの実演を通じて、子供達が、本に親しみが持てるように図った。 総参加者数 178名 貸し出し総数 163冊</p> <p>（反省・意見）</p> <p>以前は終了時刻が遅く、まっ暗な道を一人歩いて帰る児童がいたため、開始時刻を1時間早めた結果、明るい時間帯に帰宅出来るようになった。</p> <p>親子での参加が少なく感じた。また、5月に比べると10月の参加者が減っているのので、学校や関係機関を通して参加を促したい。また、土曜授業や朝読書の時間帯に学校訪問など検討が必要である。</p>	3.3
(3) 図書館まっりの充実	<p>年1回、12月に開催。田皆小学校保護者の方と知名町立図書館職員合同で行いました。絵本の読み聞かせ、パネルシアターなどの実演。「作って遊ぼう作って楽しもう」をテーマにスライム制作、クリスマスツリー制作などを実施。 総参加者 87名。</p> <p>（反省・意見）</p> <p>町内の読書グループとの共演や制作体験など参加型の図書館まっりに移行した。</p> <p>今回は、図書館単独で開催。参加者減がみられた。新規で「図書館カフェ」を行い、貸出冊数に応じて飲み物やお菓子と交換できる引換券を発行。好評だったが、2階での開催だったため、お年寄りや身体の不自由な方への配慮が足りなかった。</p>	3.1

<p>(4) ブックスタートの充実</p>	<p>年6回図書館にて6ヶ月の幼児を対象に、オススメ絵本2冊、よだれかけ、県立図書館絵本ガイド等が入った「ブックスタートパック」を配布し、読み聞かせ方法の指導、指遊び、ベビーマッサージを行い、保護者同士の交流の場にもなった。</p> <p>(反省・意見)</p> <p>参加者21名に配布。アンケートでは今後も実施して欲しいとの意見を頂いているが、子どもが6ヶ月を越えると保育園に入園するなど保護者の就業などで参加が困難。実施時期など改善が必要。</p>	<p>2.9</p>
<p>(5) おはなしの時間の充実</p>	<p>毎月第2・4土曜日にその月のテーマにあった絵本・紙芝居・エプロンシアター等の実施と簡単な工作を行っている。 総参加者 151名。</p> <p>(反省・意見)</p> <p>知名校区の子供達の参加があるが、遠隔地の参加がない。参加する保育園の固定化がみられる。各こども園等への呼びかけや周知を図っていく。</p>	<p>2.9</p>

### Ⅲ 教育行政評価委員意見のまとめ

#### 1 社会教育関係について

##### (1) 社会教育指導体制の充実

社会教育委員会を開催し、社会教育に関する諸立案に取り組み、活性化が図られているようですので、今後も報告的な会議で終わらないように、広く社会教育委員の意見が反映されるような会議にして欲しい。

また、社会教育委員のスキルアップのため、各種研修等に積極的に参加させて欲しい。

##### (2) 家庭教育の支援・充実

地域で支える家庭教育推進事業を導入し、家庭教育支援委員会を中心に、家庭教育について積極的に支援・推進が図られているようでありますので、今後も更なる支援・充実を図って欲しい。

##### (3) 青少年教育の充実

青少年育成連絡協議会を開催(年5回)し、郷土を愛し、郷土を興す人材の育成をめざす環境づくりの推進が図られる中、青少年ふるさと美化活動等の実践、サマーリーダーキャンプ、大島地区ジュニアリーダー研修会への参加等を通して、本町の青少年が自分たちのふるさとに誇りを持ち、豊かな心を育みつつ、将来の地域のリーダーとして育っていくために、様々な機会を通して学びの場を提供することはとても大切なことである。今後もそれぞれの分野において成果を上げられるように取り組んで欲しい。

平成27年度から開催した科学の祭典は、30年度は諸事情により開催されていないが、参加者、出展ブースも充実しているので、これからの日本を担うであろう子ども達に、科学を中心に様々な体験活動を通して、教育力の向上、生きる力の体得等を図るためには必要であるので、今後の開催に期待する。

「知名の子表彰」は、がんばっている子供・団体を認めてあげ、褒めて表彰することが子ども達の励みとなり成長へとつながる素晴らしい取り組みである。

今後も、町民が関心を持って子供たちの活動を見守る場面が増えていくことを大いに期待したい。

##### (4) 芸術文化活動の促進

町民の多様な芸術文化活動の成果を発表する場として、五月の祭典・生涯学習フェスティバルの舞台・作品展示・沖永良部音楽コンクール等、多くの行事が計画実施されており発表者の技能向上に寄与すると共に、町民の多数が鑑賞し娯楽の場、情操豊かな生き生きとした町づくりに大いに貢献している。

また、島唄島ムニを保存伝承するための「島唄島ムニ大会」や、子ども芸能祭も郷土芸能を保存・伝承していくために大切な行事なので、開催時期等を考慮して継続的に開催して欲しい。

#### (5) あしびの郷・ちなの活用

町民の生涯学習活動の支援として、住民参加型事業として創作演劇「えらぶ百物語」を上演し、異年齢集団による体験活動を通して、演劇を協働で作上げる喜びや興味、演じきった充実感と自信・郷土への誇りを持たせる良い事業である。

また、霧島国際音楽祭みやまふれあいコンサートの開催や、グリュックサクソフォンカルテットの学校公演・一般公演・劇団四季公演・寄席・南西航空音楽隊ファミリーコンサートのような多彩なイベントのお陰で、多くの町民がトップアーティストの演奏や演劇を鑑賞し素晴らしい演技に触れる場の提供は、「教育・文化の町」を宣言する本町として喜ばしい限りである。今後も、同様の事業及び更なる新しい取り組みを推進して欲しい。

#### (6) 文化財の保護活用

本町には、国指定・県指定・町指定の文化財として種別では天然記念物・名勝・建造物・有形民族文化財・民族資料・史跡・芸能等が多くあり、その案内板や史跡の説明文も掲示してあり知名町のPRにも役立っている。

さらには、資料保存館の整備並びにそれら貴重な資料をDVD等記録媒体に保存する取り組みなども加速化して欲しい。

また、町指定史跡「屋子母セージマ古墳跡」・「屋者琉球式墳墓」・「アーニマガヤトゥール墓」・「新城ニヤート墓」の調査報告書が刊行されたことは評価に値する。

さらに、国指定の住吉貝塚の活用について、整備・活用委員会の再設置がなされるようでありますので、十分な論議の上、地域にふさわしい活用方法を検討して欲しい。今後、地域遺産の掘り起こしや史跡巡り講習会・体験活動等を文化財保護審議会と連携しながら、町内の文化財の普及啓発を進めることは大切なことである。各集落の伝統芸能の保存、伝承についても保存会をバックアップして推進して欲しい。

#### (7) スポーツ・レクリエーションの推進

町民が楽しく豊かな心で充実した生きがいを感じる日々を過ごすためには、心身共に健康でなければならない。幼児から高齢者にわたる町民のニーズに対応したスポーツ・レクリエーションの推進に努めていることは評価に値する。町体育協会のスポーツ大会やスポーツ少年団の各種大会、町民体育大会、町内一周駅伝競走大会、島内一周駅伝大会、高齢者いきいきスポーツ大会等は町民の楽しい行事となっており、今後NPO法人イーラブと連携したスポーツ活動も積極的に行って欲しい。

また、町民の健康と体力の維持・増進のため町民体育館2階のトレーニング室の運営・2019年6月に開催されたパワーリフティング九州大会・2020年に開催される国民体育大会（パワーリフティング競技）の機運醸成も図られ、町民の基礎体力の向上にも繋がっている。

## 2 公民館関係について

### (1) 公民館講座の充実

生涯学習社会における町民のニーズに応えるために多様な講座を開設し、多くの受講生が自発的に学習し、その学習の成果を発表したりして充実感を享受できることはすばらしいことである。

平成29年度より、30年度は受講生が増加したということ。魅力ある新規講座を開設すれば、潜在的な受講希望者が現れるということは、評価できる。

また、その成果を発表する場としての生涯学習フェスティバルへの出展、舞台発表等に大いに期待する。

白百合大学受講生の減少傾向が続いているということについては、何らかの対策が必要と考える。

### (2) 自治公民館研修会の充実

自治公民館の機能・役割を的確に把握し、区長として地域に根ざした活性化ある字運営が出来るよう研修の機会を因る必要がある。

知名字のような活動を、他の字にも広めていってほしい。

### (3) 短歌コンクールの実施

小・中・高生の応募者が例年多いのは、各学校の取り組みが組織的に行われているからであろう。一般の応募は、関心のある人だけに留まっているように思われる。

今後、広報の方法や募集期間の再考等を通して、婦人会や老人会、白百合大学等の組織に働きかけ、団体活動の一環としての俳句・短歌づくり等を推進する必要がある。

### (4) 町民作品展示会の開催

生涯学習フェスティバルで沢山の出品・展示があるが、その時だけで終わるのではなく、年間を通じて中央公民館の展示コーナー等で展示して欲しい。期間毎に作品を入れ替えメリハリのある展示コーナーにしてはどうでしょうか。

また、展示替えがあった時には、防災行政無線などを使って広く広報して欲しい。

### (5) コミュニティーづくり推進協議会の開催

「明るく豊かな町づくり」を目指して、毎年度のように重点実践事項及び「申し合わせ事項」について各種団体の代表等がコミュニティーづくり推進協議会で協議して、その実践状況についても意見交換がなされている。実践事項によってはその浸透状況に差異はあるが、持参金3,000円も数年前よりは守られて来ていると実感している。

近年は、ふるさと美化活動が議論になっているようだ。ゴミや空きカンの持ち帰り運動については、守らない町民も多く見受けられるので、徹底して運動を進めていってほしい。

また、「申し合わせ事項」の浸透のためには、町当局の広報は勿論のこと、推進協議会に参加している各種団体の代表等がそれぞれの団体会員に会合等で説明し、理解

させる事が肝要ではないかと思う。特に字区長は、総会や常会等で字民に説明して実践状況を把握させる必要があると思う。さらには、推進会員や官公庁職員は、祝日の国旗掲揚・美化活動・持参金等の実践を率先垂範して浸透を広げていく必要がある。

#### (6) 成人式の実施

新成人者が司会・アトラクション等を計画して、来賓や家族の見守る中で、華やかで整然とした成人式が対象者の90%以上参加して開催されており素晴らしい。今後も成人式を故郷で迎える若人が増えることを願う。

#### (7) 弓削政己寄贈文献史料の整理

弓削政己氏の寄贈文献史料は、膨大な数になると聞いている。弓削氏の寄贈の目的、「知名町を奄美諸島史研究の拠点にしてほしい」という遺言を達成するために、整理事業の人的、組織的体制を早急に確立してほしい。

#### (8) 施設整備

町民の利用頻度の多い公民館及びその設備は、生涯学習の拠点施設として快適に利用できるよう年次的な修繕・整備を図って欲しい。

### 3 図書館関係について

#### (1) 図書館運営の充実

図書の貸出冊数 44,331 冊、町民一人当たり 8.73 冊は、県下で毎年のように上位にランクされており、蔵書数も 52,388 冊（うち児童蔵書 20,315 冊）町民一人当たり 8.73 冊と充実した図書館経営がなされている。今後もレファレンス（参考質問）やリクエストなど利用者目線での図書館運営を期待する。

#### (2) お話宅配便の充実

町図書館での業務だけでなく、各学校区の公民館を巡回しての読み聞かせやパネルシアター・エプロンシアター等の実演を通して本に親しむ機会を提供していることは読書活動の推進につながる大変素晴らしいことであり継続して実施して欲しい。

近年参加者が減少傾向にあるようであるが、土日の活用など参加しやすい日時等の検討も必要ではないでしょうか。また、参加者が他の学校よりも少ない学校があるようなので、その原因を把握し、対策を講じてほしい。

年間を通して5月と11月の2回だけの開催ではなく、可能なら毎月本の貸出を行う移動図書館のような取り組みを行うことはできないだろうか。

#### (3) 図書館まつりの充実

地域参加型の図書館まつりとして開催され、保護者や職員が講師になって、読み聞かせ、エプロンシアター・ペープサート等を通して、本好きな子どもを育てる取り組みは大変良いことである。

「科学の祭典」と同時開催により、その相乗効果で、参加者の増加傾向がみられたが、平成 30 年度は「科学の祭典」が中止となり、そのせいか、図書館まつりへの参加者が減少したようである。今年度は「科学の祭典」が開催されるようなので、それとうまくタイアップし、参加者の増加を図ってほしい。

「図書館カフェ」という新しい取り組みで参加者を増やすのは良いが、お年寄りや体の不自由な人への配慮もしっかりと行ってほしい。

#### (4) ブックスタートの充実

6ヶ月の幼児・母親を対象に「ブックスタートパック」を配付して、読み聞かせのポイント、ベビーマッサージ、手遊びを通して幼児の頃から本に親しませる取り組みは大変素晴らしいので、今後もますます参加者が増える工夫をして欲しい。

#### (5) おはなしの時間の充実

毎月 2 回テーマに沿った絵本・紙芝居等を通して、本好きな子どもを育てる取り組みは素晴らしいので今後も継続して欲しい。知名地区以外の子どもの参加が少ないのは、交通手段等やむを得ない事情があると思うが、子ども園のバスを運行してもらう工夫も検討して欲しい。

また、継続して参加する子どもが少ないので、参加する子どもたちが継続して参加したくなるような工夫に期待する。

#### (6) その他

来年度は、町立図書館開館 30 周年を迎える。内容の充実した 30 周年事業に向けて、今年度から、準備を進めてほしい。

### [ 総 評 ]

平成 30 年度については、教育委員会生涯学習課が担当している社会教育関係・公民館関係・図書館関係の各分野について、1年間の事業実施内容とその自己評価及び成果と反省点・課題等について、生涯学習課長・公民館長兼図書館長から具体的に説明を受け評価を行った。

生涯学習が叫ばれて久しいが、町民が生きがいを持ち心豊かに充実した生活を送るための創意工夫がなされている事業が多く、大きな成果を上げていることが伺えて高く評価します。

今回の自己評価及び成果と反省点・課題等を踏まえて、さらなる成果をみずすとともに今後に残されている課題への取り組みが、計画的に推進されることを評価意見とします。